

## 【議案 1 号】

平成 30 年 6 月 10 日

# 平成 29 年度事業報告

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

## I 総 括

平成 29 年度は法人名称を公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会としてスタートし、主な活動方針は以下の 2 本とした。

(1) 国民の祝日「山の日」が、登山振興の契機となるよう全国的な視野に立って各種事業を積極的、効果的に実施する。

(2) 東京 2020 オリンピック大会に向けて組織体制を強化し、スポーツクライミングの普及振興、選手の強化育成、競技大会の充実、広報強化等を図り、メダル獲得に向け努力する。

先ず、登山事業においては、祝日「山の日」記念事業は、38 都道府県山岳連盟（協会）で実施された。特にスポーツ庁のスポーツ地域活性化事業とのコラボで、鈴木大地長官が岩手山の山開き（岩手県山岳協会等主催）に参加されたことは大きな後押しとなった。

海外登山奨励事業は、応募隊が 4～5 隊と年々多くなってきている。今年はパキスタンのシスパーレ(7,611m)北東壁初登攀など大きな成果も見られた。

少年少女登山教室事業は、申請が 28 件と昨年の 26 件より 2 件の増加になった。

指導員養成事業は、山岳指導員は、東京では応募者が多いが地方では少なく、ギャップが感じられる。

医科学支援事業は、本年度から組織的に登山医科学委員会とスポーツクライミング医科学委員会の二つに分けて支援することにした。

一方、スポーツクライミング事業においては、東京 2020 オリンピック大会で追加種目となり、取り巻く環境が激変してきている。ワールドカップ、ワールドゲームズ、世界ユース選手権、アジア選手権、アジアユース選手権等の国際大会において、何れの大会でも優勝、入賞を果たすなど好成績を残している。その結果、メディアの取り上げも多く、広く報道されるようになった。

国内大会においては、参加希望者が多く、予選会を兼ねる公認大会の整備が急がれる。

次年度は早々に公認大会を募集する意向である。

登録選手規程を改定して団体登録や所属名の選択ができるようにした。各岳連におかれては、スポーツクライミングとの関りをさらに深め、当該所属選手と密なる連携を図って頂きたい。規程改定に合わせて登録方法が変更され、一時混乱も見られた。

競技施設の拡充については、スポーツライミングを取り巻く環境の好転から各地の自治体で競技施設設置の機運が盛り上がり、スピードの専用施設も増えてきている。JOC認定競技別強化センター申請も相次いでおり、2件の申請が認定された。さらに1件申請中である。

なお、事務局体制としては、以前より人数を増やし益々増える業務に対応しているが、スポーツライミング関係の業務は、まだまだ増える一方である。仕事のさらなる効率化が求められる一方、それに備えてスポーツライミング部専従の職員確保も行った。合計2名である。ただ、庶務関係の職員が退職予定であり、場合により増員する可能性がある。

JSCから平成28年度助成事業に対する立ち入り会計検査を受けた。

特筆すべきは、諸規程・規則類の整備である。競技団体としてのガバナンス、インテグリティ、サステナビリティの重要性を再認識し、ガバナンス委員会の設置等組織強化が実践され、その委員会を中心に諸規程の整備がなされ、ホームページにも掲出し、対外的にアピールした。

## II. 事業の概況

### 1. 組織・会員状況

組織・管理運営規程を改定し、整備・強化を行った。これは東京2020オリンピック大会に向けてということだけでなく、本協会の基幹をなすものであり、公益法人としてガバナンスの強化及びコンプライアンスの徹底を図るために、ガバナンス委員会を設置し、内部からもチェック機能が働くようにした。

その他諸規程の整備を行い、順次HPにアップして公開した。

会員の状況は以下の通りである。

- |            |      |                    |
|------------|------|--------------------|
| ① 正会員      | 60名  | (加盟団体48名、学識経験者12名) |
| ② 賛助会員(団体) | 11名  |                    |
| ③ 賛助会員(個人) | 142名 | (前年比13名減、新規加入1名)   |

### 2. 財政

今期の経常収益合計は、325,940千円となった。その主な内訳は、受取会費13,320千円、共済会委託事業収入40,000千円、登録料10,841千円、参加者負担金10,871千円、協賛金125,840千円、受取補助金等78,245千円、受取寄附金9,619千円である。

経常費用合計は、321,020千円で、事業費の総額は293,415千円、その主な内訳は、選手派遣等の旅費交通費88,236千円、印刷製本費10,075千円、賃借・リース料13,273千円、諸謝金22,329千円、大会施設費用73,264千円、支払負担金及び還付金(ドーピング検査、IFSCサービス料、博報堂業務委託など)16,906千円、管理費の総額は27,605千円である。

その結果、経常増減額(収支差額)は、4,920千円の黒字となった。このうち、公益会計全般では2,436千円の赤字、法人会計で7,355千円の黒字である。

JOCからの選手強化助成金は、大幅増額（前年比約1.8倍）ではあるが、助成対象経費の割合が低くなり、十分に使い切っていない。今後は計画的な選手強化事業を企画して、予算を執行していかないと次年度の助成金額に影響を及ぼすことになる。JSCからの助成金はほぼ前年並みであった。予算補正も行ったが、支出実績に合わせた面もあり、前年比1.5倍の協賛金に助けられた。予算執行に関しては予算管理規程に則り、適正に行う。

### Ⅲ. 事業の経過報告

#### 1. 安全登山普及事業

当協会における安全登山普及とは、とりもなおさず、特に普及、指導、遭対を中心とした登山部の活動を積極的に行い、山岳における事故を未然に防ぐことにある。29年度は前年度3月末に発生した栃木県高体連の雪崩事故に関し、全国的に大きな関心を持たれ、スポーツ庁はじめ関係諸団体が積極的に啓発活動を行い当協会も積極的に役割を演じた。以下に述べる個々の活動を通じて、事故を未然に防ぐ様な事業を行っているが、さらにもっと現場に突っ込んだ行動を行わなくてはならない。

海外登山奨励事業に関しては、幾つかの成果を上げているが、同一メンバーが多く、今後の育成も課題として残る。

##### (1) 青少年育成事業

###### ア) 高体連登山部関連

- ① 選手登録に関して3月31日現在で7731名登録。
- ② 第61回全国高等学校登山大会の開催 7/30(日)～8/3日(木) 山形県・蔵王、月山  
蛭田指導委員長が技術顧問として参加した。男子47校、女子45校、男女選手736名参加。  
優勝は男子：長崎県立長崎北陽台高校、女子：岩手県立盛岡第一高校
- ③ 第8回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会の開催  
12/23(土)～24(日) 埼玉県加須市市民体育館  
女子：83名(64校34都道府県)  
男子：109名(80校40都道府県)  
合計：192名(122校40都道府県)

###### イ) ジュニア登山教室

- ① 「みんな集まれ！ジュニア登山教室 in 立山 2017」  
8/17(木)～20(日) 国立立山青少年自然の家、立山周辺  
参加者15名(小学4年～中学3年)、役員5名  
ジュニア登山教室 in 立山は、3泊4日の日程中に盛りだくさんのプログラムが組まれた。参加した15名の子ども達から、「立山の大自然の素晴らしさに感動しま

した。」「友だち同士で支えたり支え合ったりの4日間でした。」「改めて友だちの大切さを強く感じました。」などの感想が寄せられた。

② 「みんな集まれ！なすかし雪遊び隊 2018」開催

3/27（火）～29（木） 国立那須甲子青少年自然の家

参加者 18名（小学生～中学3年生）

② 「ジュニア普及情報交換会」開催

2/17（土）（2018年） 国立オリンピック記念青少年総合センター参加者 23名

## （2）登山に関する文化・学術の振興事業

### ア) 新聞・ラジオ・テレビ・雑誌等への情報提供

- ・ワールドカップ各大会、ワールドゲームズ大会、世界ユース選手権、アジア選手権、アジアユース選手権及び国内各競技大会の事前及び結果のプレスリリース。
- ・国際大会出発・帰国時に空港での取材対応。
- ・那須雪崩遭難事故に関わる取材対応。

### イ) 登山に関する情報・資料の収集

### ウ) 表彰・感謝状・推薦・顕彰

- ・平成29年度実施各競技大会入賞者（1位～3位）表彰
- ・平成29年度全日本登山大会功労者特別表彰（10回以上の参加者）及び開催地関係者への感謝状（団体）贈呈  
特別表彰：佐藤健(北海道)、扇田守(青森)、荒木浩二(茨城)、中村江津子(群馬)、藤巻ひろみ(群馬)、前田充一(富山)、小林弘之(山口)  
感謝状：北海道、札幌市
- ・第7回日本山岳グランプリ  
長野県山岳協会推薦の古原和美氏が受賞した。新春懇談会において表彰され、副賞も贈呈された。
- ・文部科学大臣表彰  
スポーツ功労者として檜崎智亜、野口啓代、野中生萌選手が表彰された。  
(7/3表彰式)
- ・平成29年度各種スポーツ賞表彰候補者の推薦  
日本スポーツ賞（是永敬一郎）、毎日スポーツ人賞（推薦者なし）、日本スポーツグランプリ（推薦者なし）
- ・平成29年度生涯スポーツ功労者表彰（スポーツ庁）の推薦  
中村保氏を推薦・決定（10/6に文科省にて表彰式）祝賀会を有志で行った。
- ・上月財団スポーツ選手支援事業への推薦  
谷井菜月、抜井亮瑛の2選手を推薦・決定（9/6認定式）
- ・平成29年度宮崎県文化賞候補者推薦

三澤澄男（宮崎）を推薦・決定

- ・国民体育大会功労者表彰候補者の推薦（該当者なしで回答）
- ・平成 29 年度日本体育協会公認スポーツ指導者表彰候補者の推薦  
目次俊雄（千葉）、瀧本健（東京）、前田善彦（奈良）の 3 氏を推薦。
- ・平成 29 年度自然公園指導員自然環境局長表彰候補者の推薦  
明田通世(北海道), 関口薫(千葉)の 2 氏に決定。
- ・平成 30 年度叙勲及び褒章候補者の推薦  
牧野治生叙勲受章（福井県山岳連盟会長、福井県体育協会推薦）  
松本睦男叙勲受賞（前富山県山岳連盟会長、富山県体育協会推薦）  
岡本安夫藍綬褒章（神奈川県山岳連盟会長、神奈川県体育協会推薦）  
杉本憲昭緑綬褒章（神奈川県山岳連盟副会長、神奈川県体育協会推薦）
- ・新春特別表彰  
岳連推薦 以下の 9 名である。  
鈴木主計(岩手山協)、船越重幸(山形岳連)、阿部信一(新潟山協)、森下健七郎(埼玉岳連)、水谷潔(三重岳連)、木下喜代男(岐阜岳連)、吉村忠明(奈良岳連)、坂口仁治(山口岳連)、大森武生(岡山岳連)
- ・2017 年に国際大会で活躍したスポーツクライミング選手表彰  
以下の 4 名です。
  - ① 是永敬一郎：第 10 回ワールドゲームズ（7/20～30、ポーランド・ヴロツワフ） リード優勝
  - ② 緒方良行：第 10 回ワールドゲームズ（7/20～30、ポーランド・ヴロツワフ）ボルダリング優勝
  - ③ 檜崎明智：IFSC 世界ユース選手権（8/30～9/10、インスブルック）ジュニア・コンバインド優勝
  - ④ 谷井菜月：IFSC 世界ユース選手権（8/30～9/10、インスブルック）ユース B・コンバインド優勝

エ) 平成 29 年度海外登山隊奨励金の公募と選考

前期（平成 29 年 9 月～平成 30 年 2 月出発予定の隊）は 4 隊の応募があり、厳正な審査の結果、以下の 4 隊に奨励金を交付することを決定。後期は応募無し。

① 「2017 ダラムスラ峰西壁登山隊」

期間：2017 年 9 月 15 日～10 月 15 日

隊員：上田幸雄、黒田誠、馬目弘仁

山城：インド ヒマチャル・プラデシュ ダラムスラ峰(別名ホワイトセール、6,446m)

② 「テンギラギタウ西壁登山隊」

期間：2017 年 9 月 18 日～10 月 31 日予定

隊員：高柳傑、松本栄二郎、淀川裕司

山城：ネパール ロールワリン山群 テンギラギタウ峰 (6,943m)

③「Giri-Giri Boys Patagonia Expedition 2018」

期間：2018年1月4日～2月28日

隊員：横山勝丘、増本亮

山城：パタゴニア フィッツロイ山群、フィッツロイトラバースほか

④「嘉子峰北西壁登山隊」

期間：2017年10月初旬～11月初旬

隊員：鈴木常晃

山城：中国 四川省 貢嘎山城 嘉子峰 (Jiazi 峰、6,540m)

オ) 各種登山・山岳スポーツ大会等の後援

第4回アジア・太平洋登山医学会／第37回日本登山医学会合同学術集会の免税措置及後援。

その他、共催1件、後援名義18件承認。

カ) 日本山岳文化学会等と連携しながら、山岳文化の普及・振興を図る

日本山岳文化学会創立15周年記念講演会・祝賀会に出席 (5/27)

斎藤一男 (山岳文化学会創立会員・日山協元会長)さんお別れの会に参加。(7/29)

### (3) 安全登山の啓発事業

ア) 平成29年度中高年安全登山指導者講習会 (国立登山研修所共催) の実施

JSCの補助金共催事業。

① 東部地区 (静岡・竜爪山周辺) 9/22 (金)～24 (日)

募集期間を延長しての開催であった。一般参加者 38名。

② 西部地区 (山口・陶ヶ岳周辺) 10/7 (土)～9 (月) 開催。

一般参加者は46名であった。

イ) 山岳レスキュー講習会

JSC totoの補助金事業。

① 西部地区 (富山県・国立登山研修所) 9/8 (金)～10 (日)

用意したコースはほぼ定員に達した。合計44名参加。

② 東部地区 (群馬県・土合山の家) 1/26 (金)～28 (日)

合計34名の参加であった。

ウ) 第56回全日本登山大会の開催

7/6 (木)～8 (土) 北海道・羊蹄山、ニセコ山系周辺

全国から一般参加者255名と地元役員60名の参加があり、盛況であった。

エ) 「山の日」制定記念「ふるさとの山に登ろう」事業の開催

各都道府県山岳連盟 (協会) が主管して実施。7月の岩手県の岩手山山開きにおいては鈴木スポーツ庁長官が出席して、雨天にも関わらず盛況であった。

全国的には 38 都道府県山岳連盟(協会)で開催。

オ) 研修及び研究会

①遭難対策常任委員研修会

6/10(土)～11(日) 神奈川県山岳スポーツセンター 参加者 19 名

②平成 29 年度遭難対策研修会兼委員総会 6/24 (土) ～25 (日) 神戸セミナーハウス  
参加者 48 名、ドローン操作性確認、夏山リーダーについての説明、AvSAR 報告など。

③平成 29 年度国際委員総会兼第 56 回海外登山技術研究会

7/22 (土) ～23 (日) 国立オリンピック記念青少年総合センター

「新しいアルパインクライミングの可能性」は講師 2 名(倉上、大西)に座談会で構成した。講演はカン・ナチュゴ、ルンポカンリ、ナンガマリ II 峰など。参加者 67 名。

④「イエジ・ククチカの映画の夕べ」開催

10/11 (水) 国立オリンピック記念青少年総合センター 約 100 名参加

⑤海外登山懇談会 開催

11/16 (木) 国立オリンピック記念青少年総合センター 参加者 37 名  
カナダのアイスクライミングの紹介など、最近の話題で盛り上がった。

カ) 遭難事故防止のための研究・指導及び実態調査

キ) 平成 29 年度全国山岳遭難対策協議会の共催 (スポーツ庁他)

- ・7/7 (金) 東京 国立オリンピック記念青少年総合センター 全国から約 250 名参加
- ・従前の冬山登山及び連休登山の警告リーフレットの代わりに「山岳遭難セーフティカード」(夏編、冬編)を配布した。

ク) 山岳保険加入者の事故調査 (報告書作成/HP 掲載)

ケ) 遭難事故の調査研究

- ・遭難事故に関する調査研究 (委託事業)
- ・遭難事故の科学的分析

コ) 遭難事故科学的研究支援

- ・IMSAR 研究助成支援 (継続)
- ・AvASR 協議会支援 (新規)

サ) 平成 29 年度雪崩災害防止功労者の候補者推薦 (本協会からの推薦は無し)

シ) 高校生等の冬山・春山登山の事故防止のための有識者会議

尾形専務理事が座長として協力。第 1 回会議 (9/26)。11 月までに 4 回の会議を経て、11 月末に提言を纏めた。

スポーツ庁からの注意喚起と共に各都道府県岳連(協会)に連絡した。

ス) 内閣府の噴火時等の避難計画の手引き作成委員会への協力

**(4) 登山指導者育成事業**

ア) 指導員研修会

①氷雪技術研修会 (A 級主任検定員・上級指導員養成講習会)

- ・4/29（土）～30（日） 富士山  
研修会：13名 受講者にレベルの幅が大きい。  
上級指導員：（全員東京）：4名、A級主任検定委員：3名合格。
- ・平成30年2/17日（土）～18日（日） 大山  
研修会6名参加、上級指導員1名合格、A旧主任検定員4名合格
- ②平成29年度指導委員研修・委員総会  
6/3（土）～4（日） 東京海員会館 39都道府県56人の参加。  
UIAAスタンダード、夏山登山リーダー養成などの項目で討議など。
- ③登攀技術研修会（A級、B級主任検定員・上級指導員養成講習会）開催  
10/28（土）～10/29（日） 福島県山岳連盟 聖ヶ岩ふるさとの森で開催  
研修会：12名 遠く広島よりも参加  
上級指導員：宮崎から盛岡まで12名の参加。11名が合格  
A級主任：2名受講、1名合格。B級主任：4名受講、全員合格。
- ④夏山登山リーダー資格制度検討会（4/22、5/25、6/28、7/21、8/19、8/20、8/31、9/30、10/1、10/16、11/20、1/29、2/26、）
- ⑤指導・競技委合同研修会（6/29）
- ⑥指導常任委員会 毎月第1月曜日
- イ）主任検定員養成講習会
  - ・スポーツクライミング主任検定員養成講習会の開催  
12月2日都岳連事務所 7名参加  
12月9日昭島市総合スポーツセンター 3名参加
- ウ）公認山岳スポーツ指導者の養成
  - ①上級指導員・指導員養成講習会の実施
    - ・各岳連（協会）会長に委嘱し年間実施  
山岳指導員：北海道1名、岩手1名、栃木22名、神奈川7名、長野1名、広島16名、香川4名の認定承認  
山岳上級指導員：神奈川12名、香川1名、長崎1名の認定承認  
SC上級指導員：山形1名、宮城7名
- エ）国立登山研修所研修会の後援（通年）

## 2. スポーツクライミング事業

29年度においては以下に記録されるようにトップクライマーにおいては多くの成果があった。若い力も順当に伸びてきている。国内の競技大会も数多く開催され、充実した運営を図れるようになった。唯、主催大会が相次ぎ、事務処理等に遅れなどの影響が出ていることも事実である。今後は公認大会など地方レベルでの大会や次代を担う普及レベルでの浸透も必要となってくる。

### （1）競技会運営事業



註:競技会名には外部向けに、全て「スポーツクライミング」という文言を入れる。

ア) 競技会・研修会の開催

- ①スポーツクライミング第20回日本ユース選手権リード競技千葉大会 2017  
4/15(土)～16(日) 印西市松山下公園総合体育館 男子110名、女子106名参加
- ②IFSCボルダリングワールドカップ八王子大会 2017  
JSC 振興基金の補助金事業。  
5/6(土)～5/7(日) 東京・エスフォルタアリーナ八王子  
男子は、世界各国から83名が参加、檜崎、渡部がそれぞれ2位と3位、石松が6位。  
女子は53名が参加、野口、野中が2位と3位に入った。
- ③スポーツクライミングボルダリングユース日本選手権鳥取大会 2017  
5/20(土)～21(日) 予定 鳥取県倉吉体育文化会館、参加者は男女各々以下の4つのカテゴリで、288名の参加。  
ジュニア(1998年、1999年生まれ)、ユースA(2000年、2001年生まれ)  
ユースB(2002年、2003年生まれ)、ユースC(2004年、2005年生まれ)
- ④スポーツクライミング第31回リード・ジャパンカップ(愛媛国体リハーサル大会)  
6/10(土)～6/11(日) 愛媛・西条市 86名の参加。
- ⑤スポーツクライミング第20回JOCジュニアオリンピックカップ  
8/12(土)～14(日) 富山県南砺市桜ヶ池クライミングセンター  
ジュニア、ユースA,B,Cに各選手が参加し、参加者合計 207名。
- ⑥全国ルートセッター研修会  
・第1回:8/15(火)～17(木) 富山県南砺市桜ヶ池 cc  
研修生の参加は6名。公認ルートセッター3名、C級ルートセッター3名が合格。  
・第2回:12/25(月)～27(水) 埼玉県加須市民体育館
- ⑦スポーツクライミング第8回全国高等学校選抜クライミング選手権大会(「青少年育成事業」の項参照)開催  
12/23(土)～24(日) 埼玉県加須市民体育館
- ⑧スポーツクライミング第13回ボルダリング・ジャパンカップ一般参加選手予選会開催  
12/9(土)～10(日) プレイマウンテン名古屋 IC 店  
参加者は男子147名、女子44名
- ⑨バラクライミング大会  
明治大学和泉キャンパスにて1/28(日)開催、当日は29名の参加があった。
- ⑩スポーツクライミング第13回ボルダリング・ジャパンカップ開催  
JSC 振興基金の補助金事業。  
2/3(土)～4(日) 東京・駒沢オリンピック公園総合運動場

男子 96 名、女子 61 名参加

⑪リード日本選手権開催

3/3(土)～4(日) 埼玉県加須市民体育館

男子 73 名、女子 46 名参加

⑫ユース日本選手権リード競技大会

3/24(土)～26(月) 印西市松山下公園総合体育館

男子 145 名、女子 115 名参加

⑬競技委員会ブロック研修会の開催

東北 (11/25～26、宮城、参加者 84 名)、中国 (12/2～3、山口、参加者 10 名)、四国 (12/2～3、高知、参加者 26 名)、北信越 (12/9～10、新潟、参加者 25 名)、東海 (1/13～14、岐阜、参加者 47 名)、近畿 (1/20～21、和歌山、参加者 29 名)、関東 (1/20～21、茨城、参加者 109 名)、北海道 (2/24～25、参加者 13 名)、九州 (3/10～11、鹿児島、参加者 91 名)

⑭公認大会・予選会実施の推進

来年度からの実施に向けて整備。

⑮2018 年スポーツクライミング競技日程及び会場の検討

イ) 国体山岳競技関連事業

① 4/15 (土) ～16 (日) 第 72 回愛媛国体第 1 回基準会議、愛媛県西条市

② 6/9 (金) ～11 (日) 第 72 回愛媛国体第 2 回基準会議、愛媛県西条市

③ 9/10 (日) 組合せ抽選会 岸記念体育会館

④ 各ブロック別大会、都道府県予選大会の開催 (委託実施)

⑤ 9/30 (土) ～10/3 (火) 第 72 回愛媛国体山岳競技 (愛媛県西条市)

⑥ 第 72 回愛媛国体以降の開催県への指導

・第 73 回福井国体リハーサル大会の新規計画と指導

ウ) 競技運営

①競技委員総会の開催 4/2 (日)

②国体山岳競技への支援協力 ルートセッター派遣、ブロック別研修会講師派遣

③ (一財) 日本トレイルランニング協会神奈川事務局との協力

エ) 東京オリンピック 2020 関連

①新NTCのスポーツクライミング施設設置要望書提出 (4/3)

②NHKアナウンサーのスポーツクライミング勉強会協力 (4/7、Rock Wall 青山)

③東京オリンピック 2020 組織委員会との協議 (4/27、5/8～10、11/14～16、3/7～9)

④東京オリンピック 2020 競技会場視察 (5/8)

⑤東京オリンピック 2020 競技大会国内競技団体協議会 (5/25、7/12、10/27)

- ⑥2018年アジア選手権実行委員会立ち上げ(7/26、倉吉市)
- ⑦スポーツ国際基盤形成事業第1回情報共有連絡会(8/3)
- ⑧JOC認定競技別強化センター申請サポート(鳥取県倉吉市、岩手県盛岡市は認定承認、愛媛県西条市は申請中)
- ⑨1964年から2020年東京オリンピックへ「未来をつなぐレガシー展」(7/7~9/24、羽田空港美術館ディスカバリーミュージアム)開催協力
- ⑩東京オリンピック2020開幕1000日前イベント「日本橋シティドレッシング meets オリンピックコンサート」(10/28~29、日本橋・中央通りほか)開催協力
- ⑪東京オリンピック2020開幕1000日前イベント「ウェルカム TOKYO スポーツパーク2017」(10/28~29、東京タワーほか)開催協力
- ⑫IFSC Debra Gawrych Secretary General との協議(2/5)
- ⑬FISE Hiroshima 2018(2018、4/6~8)の開催準備

## (2) 競技力向上事業

### JSC 及び JOC の強化補助金事業。

#### ア) 日本代表選手選考・派遣

##### ①代表(S、A、B)選手の選考

ボルダリングは男子12名、女子9名、リードは、男子13名、女子9名である。

#### イ) 代表選手の派遣

下記は日本人選手の成績である。

##### ①IFSC クライミング WC

4月~11月 世界各地に派遣。

各大会において、多くの選手が優秀な成績を収めている。

##### ②IFSC 世界ユースクライミング選手権

8/30(水)~9月10日(日) インスブルック

・スピード: ジュニア、ユースB

男女とも入賞者(8位以内)なし。

・リード:ユースB

男子 入賞2名、女子 入賞4名

・リード:ユースA

男子 入賞1名、女子 入賞なし

・リード:ジュニア

男子 優勝含む入賞3名、女子 入賞1名

・コンバインド:ユースB

男子 入賞3名、女子 入賞3名

・コンバインド:ジュニア

男子 優勝含む入賞3名、女子入賞1名、

・コンバインド:ユース A

男子 入賞 2 名、女子 入賞 0 名

③ワールドゲームズ大会

7月20日(木)～30(日)、ポーランド共和国・ヴロツワフ

・ボルダリング 入賞者(8位以内)

男子 優勝含む3名、女子 3名

・リード

男子 優勝含む2名、女子1名

④アジア選手権

9月18日(月)～21日(木) テヘラン

・リード

男子 優勝含む2名、女子優勝含む3名

・ボルダリング

男子 優勝含む4名、女子優勝含む3名

・スピード

男子 女子 入賞 0 名

⑤アジアユース選手権

7月9日(日) シンガポール

コンバインド ユース A

男子 3名、女子 優勝含む2名

⑥チャイナ・オープン

11月17日(金)～10日(火) 広州(中国)

・リード

男子 4名、女子2名

・ボルダリング

男子 4名、女子優勝含む2名

・スピード

男子1名、女子1名

ウ) 代表選手強化合宿

・ユース日本代表複合対策合宿 5/28(木) モリパークアウトドアヴィレッジ  
参加者 24名

・ユース日本代表複合対策合宿 6/16(金)～18(日) 常翔学園 参加者 25名

・リード日本代表合宿 6/15(木)～16(金) Climbing Park Base Camp 17名参加

・日本代表スピード強化合宿 8/18(金) 常翔学園 参加者 7名

・日本代表スピード強化合宿 8/24(木) モリパークアウトドアヴィレッジ  
参加者 23名

- ・ユース国内強化合宿 11/3 (金) ~5日 (日) モリパークアウトドアヴィレッジ  
参加者 30名
- ・ユースキックオフ合宿 11/4 (土) ~8日 (水) JISS,PUMP 1 川口店、幕張総合高校  
参加者 35名
- ・ロシア式スピード合宿 11/6 (月) ~8日 (水) モリパークアウトドアヴィレッジ  
参加者 22名
- ・第1期オリンピック強化選手合宿 12/6 (水) ~8日 (金) JISS,Base Camp,モリパークアウトドアヴィレッジ  
参加者 24名
- ・ボルダリング強化合宿 2/19 (月) ~21 (水) JISS,NTC,Base Camp,PUMP 荻窪店  
24名参加
- ・スピード記録会 : 4/14 (参加者 28名)、4/21 (参加者 17名)、5/4 (参加者 19名)、  
5/5 (参加者 40名)、10/28 (参加者 8名)、11/18 (参加者 12名)、11/25 (参加者 9名)、  
12/2 (参加者 10名)、12/9 (参加者 9名)、12/16 (参加者 31名)、12/25 (参加者 45名)、  
2/5 (参加者 6名)、2/10 (参加者 6名)、2/18 (参加者 7名)、2/24 (参加者 18名)、  
3/5 (参加者 11名)、3/10 (参加者 11名)、3/11 (参加者 8名)、3/18 (参加者 20名)、  
3/27 (参加者 44名)

国内の東京・大阪において実施

- エ) ユース選手・指導者講習会の開催
- オ) ジュニア・クライマー実態調査に基づく選手、指導者、保護者へのスポーツ障害予防啓発
- カ) 複合種目(リード、ボルダリング、スピード) 同一選手への取り組み  
特にスピードに関しては、記録会の開催や合宿で取り組んで、強化を図った。
- キ) 選手の心身面の強化に対する取り組み
- ク) 競技者育成プログラムの作成と関連事業の検討  
JOC 主催の研修会に参加。

### 3. 登山研究調査事業

海外との人脈の交流は相変わらず行っているが、BMC(英国山岳評議会)などは従来と違う形での見直しを図っており、体制等含めて活発化したい。医科学ではスポーツクライミングのおかげでAT(アスレチックトレーナー)やSD(スポーツドクター)の受講希望者が増えた。この流れは今後も継続すると思われる。自然保護活動については従来通りである。AD(アンチドーピング)に関しては、非常に重要であり、これからも益々力を入れていかななくてはならない。

#### (1) 国際交流事業

- ア) 国際交流
  - ①1976年日本・イラン合同マナスル登山隊のイラン側隊員来局 (4/20)
  - ②ネパール観光促進感謝の夕べ (7/7)

- ③ネパールナショナルデー参加 (9/20)
- ④ネパール山岳協会のサンタ・ラマ会長来日歓迎会 (2/21)

イ) 派遣他

- ①BMC International Climbers Meet への派遣 (夏)  
5/13 (土) ~20 (土) 英国 Comwall, 倉上慶太、増本さやかを派遣
- ②UAAA 合同遠征として久松靖、岩田直也の2名をキルギス・技術訓練に派遣
- ③ISMF(国際山岳スキー連盟)アジア選手権派遣支援  
2020年第3回冬季ユースオリンピック(ローザンヌ開催)に山岳スキーが正式種目に決定した。その準備も含め国内におけるアジア選手権の開催打診もあり、俄かに情報量が増えた。今後の展開も慎重にこなさなくてはならない。  
アジア選手権: 2/27 (火) ~3/2 (金)、北京郊外  
韓国大会: 3/17 (土) ~18 (日)
- ④第11回山岳スキー競技日本選手権大会(③の選考大会)  
4月1日(土)~2日(日) 小谷村梅池高原  
参加者は61名、快晴の下、無事に終了した。

(2) 医・科学支援事業

本年度より組織的に登山医科学委員会とスポーツライミング医科学委員会の二つに分かれた。それにより、予算配分も二つに別れることになった。

ア) 日体協公認スポーツドクター養成支援 (受講希望者の推薦及びスポーツドクター代表者協議会への出席)

従来は受講希望者がいなかったが、スポーツライミングによる影響で本年度は3名もの希望者があった。ただ、受講者は1団体1名に限られる。

イ) UIAA MedCom

- ①UIAA MedCom Meeting への出席  
3月27日~29日にカトマンズにおいて開催、増山委員長が出席した。那須の高校生の雪崩についても多くの質問を受けたとのこと。

ウ) 日山協が支援している医科学的諸事業

- ①国際認定山岳医研修会
- ②日本登山医学会認定山岳医研修会
- ③NPO 富士山測候所を活用する会
- ④JSMM 登山者検診ネットワーク
- ⑤日本登山医学会ファーストエイド講習会
- ⑥第4回アジア・太平洋登山医学会/第37回日本登山医学会合同学術集会  
尾形専務理事が講師で出席

エ) 調査研究事業

- ①トレラン大会の安全基準作成のための調査研究

- ②医療支援を視野に入れた学校登山の実態調査
- ③競技力向上に係る調査研究（「競技力向上事業」を参照）

オ) スポーツクライミング支援事業

- ①メディカルチェック(JISS)
- ②傷害予防、応急処置セミナーの開催準備（12/17 予定）
- ③競技大会における医務業務（医師、アシストの派遣）

**(3) ドーピング防止事業**

JOC 強化指定選手は必ず研修を受講する義務があるとのことで、受講日の希望を確認して JOC に通知している。

ア) ドーピング防止思想の普及・啓発・教育など

- ①ドーピング検査実施（JADA に委託）

JSC toto の補助金事業。

BWC（5/7）、YB（5/21）、JOC Jr.（8/14）、BJC（2/4）、日本選手権 L（3/4）、YL（3/26）の6件

- ②ドーピング防止講習会開催（12/17、2/2、3/2、）3/24）延べ185名の選手が参加

競技ブロック研修会で開催：東北（11/25）、四国（12/2）、北海道（2/24）、延べ148名の選手が参加

- ③TUE（治療目的使用に関わる除外措置）申請の支援
- ④ADAMS（アンチ・ドーピング管理システム）登録選手への管理支援

**(4) 山岳環境保全事業**

ア) 研修及び研究会

- ①第41回自然保護委員総会

9/9（土）～10（日） 石川県白山市

参加者 全国69名、石川県28名。翌日はオプションで白山に登山。

- ②常任委員研修会

6/17（土）～18（日） 箱根外輪山東域(足柄)にて開催。参加者32名。

- ③第7回自然保護指導員研修会の開催準備

11/11（土） 国立オリンピック記念青少年総合センター

イ) 自然保護の啓発

- ①自然保護指導員制度の推進

・自然保護指導員腕章からワッペンへの移行実施

- ②全国環境月間(6月)の実施

- ③環境省・自然公園指導員制度への協力

・自然公園指導員の推薦

- ④山岳自然保護関係団体と連携して自然保護委員会活動の推進

- ・山岳団体自然環境連絡会への参加
  - ・山の野生鳥獣目撃レポート・プロジェクトの推進
  - ・各種環境保護事業の後援と派遣
- ⑤日本オリンピック委員会主催「スポーツと環境会議」への参加・協力

## 4. 共益事業

本協会の顔ともいえる機関誌『登山月報』は、第3種郵便扱いの定期刊行物であるが、原稿の集まりが悪く毎月余裕のない編集に追われている。内容及び編集体制の見直しが急務である。HPは徐々にではあるが以前よりは充実してきた。しかし継続性や素早い対応が求められ、課題は常に残っている。理事会構成の見直しが提案され、全国理事長会議などより現場に近い会議に関心が寄せられている。IFSC関係の国際会議が増えてきた。今後も続くと思われる。ガバナンス委員会による規程等の整備が順調に行われている。また、予算執行に関する管掌についてはやっとな緒についたばかりである。

### (1) 広報等

ア) 『登山月報』毎月15日定期発行 第577号(4月号)～第588号(3月号)

イ) HPの更新作成 (<http://www.jma-sangaku.or.jp>)

スポーツクライミングに関して、それまで3点あったページを統一した。

#### ①英文コーナーの新設準備

現在国際委員会をはじめ、継続して準備している。

### (2) 会議等

ア) 総会 5/28(日)

イ) 理事会 第1回 5/13(土)

第2回 5/28(日)(総会終了後)

臨時 9/3(日)

第3回 11/12(日)

第4回 3/3(土)

ウ) 全国理事長会議 2/18(日)

エ) 全国参与会 7/6(木) 北海道(第56回全日大会開催時)

6名の顧問、役員及び13名の参与が出席。

1/13(土) 新春懇談会時

4名の顧問、役員9名、及び18名の参与が出席。

オ) 常務理事会 定例会毎月第2木曜日開催(原則) 年12回開催予定

毎月常務理事会の前に三役会議を開催

カ) 常任委員会 毎月1回以上開催

キ) 事務局会議(随時)

ク) 山岳4団体懇談会 7/20日(木)(平成29年度は本協会が幹事団体)



原宿・南国酒家にて、(公社)日本山岳会、(公社)日本山岳ガイド協会、日本勤労者山岳連盟及本協会が集まり、23名参加。共通の問題の確認、方向性などが討議された。

ケ) (一財)全国山の日協議会運営協力 (随時)

①理事会・評議員会 (5/30)、運営委員会 (10/30、3/13)、理事会 (11/22)

②第2回「山の日」記念全国大会 in 那須の開催協力

8/10 (木) ~11 (祝) 栃木県・那須町文化センター他、全国から約900人出席。八木原会長、尾形専務理事参加。

コ)国際会議

①国際山岳連盟登山部会 4/21 (金) ~22日 (土) イギリス ケズウィック

青山遭対副委員長出席。那須の雪崩事故が大きな問題となった事の報告があった。

②アジア山岳連盟 (UAAA) 理事会 5/30 (火) ~6/4 (日)

モンゴル 八木原会長、笹生国際常任委員出席

③国際山岳スキー連盟 (ISMF) 総会 6/16 (金) ~18 (日)

アンドラ 笹生常任委員出席

④アジア山岳連盟 (UAAA) 総会 10/22日 (日) ~25日 (水)

イラン 八木原会長、小野寺常務理事出席

⑤国際山岳連盟登山部会 11/10 (金)~11(土) キプロス ラルナカ

青山遭対副委員長出席。

⑥IFSC イベントオルガナイザー会議 11/25(土)~26(日)

イタリア トリノ 平山副会長、村岡常務理事

⑦IFSC ACC 総会 2/24(土)~25日(日)

マニラ 村岡常務理事、小日向常務理事

⑧ISMF ACC 総会 2/27(火)~3/2(金)

北京 八木原会長

⑨IFSC 総会 3/14(水)~21(水)

インスブルック 八木原会長、平山副会長、合田・小日向常務理事、原田事務局員

⑩UIAA 理事会 3/21(水)~28(水)

カトマンズ 八木原会長、小野寺常務理事

### (3) 総務等及びガバナンス委員会

ア) 平成29年度役員・会員名簿及び賛助会員名簿の作成

例年、専門委員会常任委員の選出が遅れるため、発行が秋以降になっているので改善したいが本年度は2年に1度の改選時期であり、やや遅れた。

イ) 議事録の整備・管理

ウ) 諸規程の整備

ガバナンス委員会の担当になる。9月に臨時理事会を開催して諸規程を整備した。

11月の定時理事会においても同様である。順次HPにアップした。年度内に規程集の改訂版を刊行するための準備。

エ) 山岳遭難・捜索保険のPR (山岳雑誌広告、登山月報広告、マスコミ各社他)

オ) NF体制の改革を図り、その一環として人員増など事務局体制の強化を行った。

スポーツクライミング関連の業務は増える一方で、事務局員の補充を行った。しかし、大会現場においては、まだまだ不足している。

カ) 組織充実強化のための方策検討

組織体制強化ということで、管掌業務の明確化など、各種規程が整備されてきた。

キ) スポーツクライミングの団体登録制度の検討

登録選手規程を改定して、次年度から導入する方向が決まった。

#### (4) 財政等

ア) 財源の確保

①ロイヤリティー収入源の具体策を検討

- ・公認大会の公認料検討
- ・選手登録の登録料検討

イ) 外部資金の導入

①グローバル・パートナーの獲得 (1社獲得)

②スポーツクライミング・オフィシャルパートナーの獲得

専任代理店の営業で、2018年はゴールド4社、シルバー2社、ブロンズ3社獲得。

③オフィシャル・サプライヤー

公募の結果、2018～2021年の4年間ゴールドウインに決定した。

④寄附金の獲得

ウ) 常務理事会において毎月の収支決算の報告

エ) 国民スポーツ登山振興基金の管理

オ) 監事監査 業務・会計監査 28年度期末監査：4/27 (木)～28 (金)

平成29年度中間監査：11/1 (水)

カ) JSC実態調査 (9/5)

キ) 中間決算と補正予算について

9月3日の臨時理事会において第1次補正予算承認。11月12日の理事会で中間決算承認及び第2次補正予算承認。

ク) 創立60周年記念事業募金

3月31日現在 40,000円で募金告知の周知が必要。

以上